

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100286		
法人名	特定非営利活動法人 NPO 社会福祉振興会		
事業所名	グループホームななかまど歌志内館 2号館		
所在地	北海道歌志内市字中村34-1		
自己評価作成日	令和3年10月25日	評価結果市町村受理日	令和4年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0177100286-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和3年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は「共に笑顔で 共に想い合い 共に支え合う」を年間目標としてかかげており、職員が把握・意識してケアが行えるように介護室に記載し、ケア会議等で1ヶ月どのように取り組めたか確認している。またアセッサー(期末評価)の活用や職員面談、eラーニングの活用など行い、職員が仕事にあたり、困っている事や把握していることを上司が明確化できるように取り組み、職員が働くうえでの不安等が改善できるようにしている。

コロナ禍で外出や面会など制限をかけている中で、少しでも入居者さんやご家族様が不安や寂しさなく過ごせるようにテレビ電話の活用や窓越し面会、また動画など撮影し、みられるようにしたり取り組んでいる。また外出などができない中で、毎月行事企画を開催し、その中で、レクリエーションを取り入れ、身体を動かしたり、季節を感じていただけるような機会をつくっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 む の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 む の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念があり、入社時に意味を説明していただいている。また出社時に個別に理念や運営方針等の復唱を行うようにし、共有や実施につながるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理念にもあるよう地域の推進役となりといった部分をかけ取り組んでいる。コロナ禍で実施が制限されているのが現状ではあり、市町村の防災訓練も参加予定であったが中止となってしまうている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃から見学の受け入れ等を行えるように取り組んでおり、いつでも事前に伝えていただければコロナ感染対策を行いながら見学等行えるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状コロナ禍で書面開催となっている。活動報告等とアンケートを送り、意見をいただくようにし、その結果をまとめて報告している。またご家族様にも同じように送り、日頃聞くことができない意見等も聞く機会を設けられている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告はもちろん、日頃から市役所とは連絡を取りながら、取り組みの理解や協力関係を気付けるように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表の虐待防止委員等が社外の研修に参加し、その後社内研修を行い、正しく理解できるように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記の記載内容同様、社外の研修への参加を行いながら学ぶ機会をもうけている。また日頃から研修等ではグレーゾーン等を把握しながら、虐待が防げるよに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等でも学ぶ機会を設けている。またその都度必要こと等は話し合いながら活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や運営規定等の説明をきちんと行い、都度疑問や不安を聞き取りながら行っている。またそれ以外にも不明なこと等あれば対応を行い、理解・納得できるように働きかけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際に活動報告等と一緒にアンケートを送るようにし、ご家族様から意見や要望を聞くようにし、運営推進会議の会議録としてまとめて委員の人にも知らせている。ご入居者様の意見も日常生活で聞き取りし反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の面談等で運営に関する意見や提案をさせていただく機会をあり、それに伴い改善できることなどはすぐに反映していただけている。日常の中でも意見を言いやすい環境を作られている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の面談等でやりがいとなることを目標にしたり、各自の状況に合わせて向上心を持って働ける環境を作っていただけいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修も2ヶ月に1回ペースで法人内で行っている。またeラーニング等取り入れながら、一人一人の力量の把握ができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で社外の研修等へ行く機会は現在設けられていないが、研修や交流会等がある際には進んで参加できる環境を作っていただけいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時にはご本人様の不安等を聞き取り、改善してから入居にあたっている。入居後も安心して暮らせる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の段階でご本人様同様、ご家族様からも不安や困っていることなど聞き取りながら、入居後も安心していただけるように関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望にあたり、現在困っていること等を確認しながら、どのようなサービスが必要かどうかを検討し、利用可能かどうかを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に作業を行う場面を設けながら、ご本人様が活躍できる場面をつくったり、頼りにされていると感じていただけるような働きをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とご本人様が良好な関係を気付けるように時にはスタッフが間にはいり、支援が行えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人等と電話連絡や手紙(年賀状)などができる機会をつくっている。またコロナ禍で場所へ行くことが出来ない中でも話をしながら馴染みの場所など思い出す機会をつくっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	上手く他者とコミュニケーションが取れないご入居者様にもスタッフが間に入り、他のご入居者様とコミュニケーションが取れるように取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後にも必要に応じてフォローが行えるようにいつでも相談等を受け付けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でも聞き取りを行うのはもちろん、ケアプラン1表にも意向をのせ誰でも把握できるように取り組んでいる。また聞き取り等が難しい方はご家族様と検討し意向を決めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴など入居前に聞き取りやそれまで暮らしていた環境を把握し、馴染みのものなどを部屋に持ってこられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日行いたいことをの聞き取りや心身の確認など行いながら一日の過ごし方や支援方法を検討するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様が今、必要とする支援を本人・家族・その他関係者と話し合いながら、毎月のケア会議を行う中で、介護計画に反映できるように作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施結果を毎日記録する中で、現在必要な支援や工夫を出し合いながら、介護計画に反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、生まれるニーズに対して、現場で話し合いご本人様やご家族様の状況に合わせたサービスを提供できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナ禍で地域資源など利用する機会は減ってしまっているが、施設内でできることを行いながら心身の力を発揮していただける機会をつくっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診等馴染みのある医院を継続して通院されているかたもいる。また往診に切り替える際にもきちんと医師同士が連携を取りやすいように手紙等書いていただき情報提供が行えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護等の利用はなく、何かあればかかりつけ医に連絡を行い指示をいただいたり、受診や往診時に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず病院に情報提供や服薬リスト等の書類を渡し、医療機関と情報が共有できるように行っている。また都度何かあればご連絡をもらったり、こちらからも連絡をする機会を設け関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階でターミナルケアの書類等説明を行い、現状で意向を確認し、同意等いただいている。また状態が変わり次第、随時ご家族様や医療機関等と話をしながらその都度必要な支援が行えるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から職員間で申し送り等を行い連携をとるようにしているのはもちろん、フローチャートや緊急連絡網等を作成し、何かあれば対応できるように取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練・災害想定訓練を行っている。特に職員が手薄の夜間想定で行い、また順番に行っていない職員が行えるようにしている。また地域とも協定を結び、協力体制をつくっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳や尊重といった研修等も行っているほかに、声掛けなども日頃から気をつけながら、対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや希望を聞き取るなかで、自己決定が難しい人にも選択肢をつくり選んでもらうなどの工夫を行い、自己決定支援にあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように過ごしたいのかなど希望を聞くのはもちろん、その人のペースで過ごせるようにこちらからの支援ばかりを優先しないでケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時に馴染みのものや好みの服を持ってきていただいたり、着替え時には自分で服が選べるように支援している。また訪問美容等で、カットやカラーをご本人様の希望で行えるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事もしみの一つとして嗜好の確認を行ったり、調理や片付けなどその人が今できることを行っていたるように支援を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や一日の水分摂取量の記録はもちろん、一人ひとりあった食事形態等を把握し、提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・食後・就寝前など口腔ケアが行えるようにし、促しや見守り、介助等その人に合わせた支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録シート等を活用しながら、排泄パターンの把握を行い、声掛けや促しで誘導を行いながらトイレでの排泄や自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や運動などの機会をつくり便秘改善に努めている。場合によっては医師に相談しながら下剤の調整等も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望などを聞くようにし、ご本人様が入りたい時に入れるようにできるだけ対応を行っている。入浴が楽しめるように場合によっては入浴剤の活用や音楽をかけたり、歌を唄う機会をつくっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人一人ひとりに合わせて、日中も居室で臥床できる時間をつくったり安心して気持ちよく眠られるように環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストも介護室に置いており、すぐにどの職員でも見られるようにしている。また特に副作用等把握が必要なものは職員間で共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴など入居時に確認し、本人が力を発揮できるような場面づくりを行っている。また暮らしていく中で本人やご家族様から嗜好や楽しみごとなど確認し行えるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様が行きたい所や希望を確認する中で、できる範囲で希望に添えるようにご家族様等にも協力していただきながら、希望を叶えられるように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様やご家族様とも相談しながら、自分で管理を行いたい人は居室で現金を持っている方もいる。困難な場合はこちらで預かり随時提供できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を書く機会などもつくっている。耳が遠く電話が上手く出来ないかたも職員が間に入り、会話が行えるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、色や温度調整や加湿など工夫をしたり、場合によっては季節を感じていただけるような装飾を居心地よく過ごせる程度に行い、季節感を感じていただけるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の椅子の配置なども工夫し、気の合う人通しが過ごせたり、思い思いに過ごせるような環境をつくっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の段階で使い慣れた馴染みのものを居室に持ってこられるようにし、ご本人様が居心地よく過ごせる工夫を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることやわかることを増やすためにも居室前の名前の掲示やトイレの表記などを行っている。また安全に過ごせるように歩行の妨げとなるものを撤去するようにしている。		